

OKoTaC 通信

オコタック

2014年6月10日発行

NO.17



P 2 NPO活動報告

『2014年度オコタック総会開催』

『西区子育てガイド・多言語版「みんなでたのしく すくすく にしく」完成!』

P 3 OKoTaC 掲示板

『サタディクラス、新教室を大阪市中崎町に増設しました』

『ころちゃんのクリアファイルを作ります!』

P 4 特別寄稿

『府立高校での渡日生教育の経緯と現在』

P 5 多文化な子ども@大阪のニュース

『TABUNKA SHINGAKU JUKU (たぶんか進学塾)』

『府立高校で学ぶ 外国にルーツを持つ生徒たち

～2013年度「ピアにほんご」事業より』～

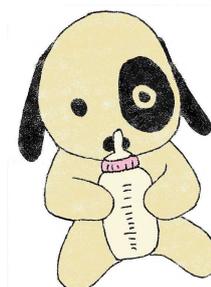
P 6 Air Mail メキシコ便り⑮

『パラグアイ』

P 7 地域の子ども支援教室から⑰

『アミーゴスクラブ』 (大阪府堺市)

P 8 イベント情報





おおさか子ども多文化センター 活動報告

2014 年度 オコタック総会 開催

5月31日(土)、NPO 事務所のとなり、ヒューライツ大阪セミナー室にて、おおさか子ども多文化センターの年次総会を開催しました。委任状 34 名を含む 59 名の出席で総会は成立、村上理事長の挨拶の後、事業報告・決算報告、理事・監事の選任(再任)、活動計画・予算案の順に報告・提案が行われ、すべて承認を得ました。その後引き続き、門真なみはや高校の大倉安央先生に「府立高校での渡日生教育の経緯と現在」と題してお話いただきました。大阪府の高校入試制度は、他県と比べても外国ルーツの生徒対応において先進的といわれていますが、現在のその形は、これまで多くの現場の先生方が目の前の子ども一人ひとりに向き合う中で、何年もかけてひとつずつ勝ち取ってこられたものなのだ、ということがあらためてわかり、オコタックの総会にふさわしい非常に有意義な、かつあたたかい想いを共有できた時間となりました。



総会に初参加された会員の伊藤秀子さんが、以下に感想を寄せてくださいましたのでご紹介します。

♪ ♪ ♪

笑いは心の扉を開いてくれます。図らずも笑いを取っての総会スタートに「座布団一枚」です。補助イスも出され、狭い会場は熱気に満ち、少し暑いくらいでした。夏日のせいばかりではありません。活動内容のぎっしり詰まった資料に急いで目を通しながら、オコタックに対する認識を新たにしました。

HP の刷新、セミナーの企画、ころちゃんのロゴ付クリアファイルの作成など今年度の新しい取り組みも紹介され、楽しみな1年になりそうです。

今回は門真なみはや高校の大倉先生のお話がぜひ聞きたくて、総会はツイデに参加したという態度の悪い会員ですが、直接、気持ちに届くものを感じて、参加してよかったと思っています。本命の大倉先生のお話は、知りたいと思っていたことに全て答えてくださった内容で大変満足しました。これからも総会と抱き合わせで、講演を含め、現場で奮闘されている方々のお話を聞く企画などをしていただけたらと、身勝手なことを思っています。会員 120 名達成に微力ながら尽力したいと思います。(伊藤秀子)



.....

西区子育てガイド・多言語版『みんなでたのしく すくすく にしく』完成！

おおさか子ども多文化センターでは、2013 年度大阪コミュニティ財団(大阪信用金庫ふれあいスマイル基金)の助成をいただき、大阪市西区子育てガイド・多言語版(やさしい日本語、英語、中国語)の作成に取り組んできましたが、このたび、『みんなで たのしく すくすく にしく -西区子育てガイド-』が誕生しました。

この活動が生まれたきっかけは、縁あって西区に NPO 事務所を構えることになったため、何か私たちが地域貢献ができないかと考えたことでした。オコタックは、外国にルーツを持つ子どもの包括的教育支援をミッションに掲げています。家庭で保護者が安心して子育てができるということは、子どもの成長、教育に大きな影響を及ぼします。

西区の外国人登録者の多くは、中国、韓国・朝鮮出身ですが、最近では、フィリピン、タイ、ベトナム、ブラジル、アメリカ、ネパール等多国籍化しています。そして、外国籍住民も含めて子育て世帯が多く住んでいます(*)。西区役所・社会福祉協議会の方々と話をする中で、西区は特定の言語の外国人集住地区ではないこと、在住外国人の相談場所といったサービスがなく、外国人母子をサポートするボランティアグループ・居場

所等もないことが分かってきました。また行政文書は日本人でも難しく、市の HP 等から必要な情報を探し出すのは容易ではないことから、生活に必要な情報が十分に伝わっていないのではないかと考えました。そこで、不慣れな日本で少しでも安心して出産・育児ができるよう、妊娠から出産、幼児期の育児を重点的にまとめた情報を多言語で作成することにしました。

ガイド作成に当たっては、現在子育て中の人や、外国籍住民当事者の声をできるだけ拾いながら進めました。難しい行政表現はなるべくやさしい日本語にして、ルビをつけました。さらに、電話番号や住所を入れ替えると、西区だけでなく大阪市の他区でも使えるような汎用版を意識した構成になっています。

現在大阪市政では、いかに海外から観光客や投資を呼び込むかとか、英語を使って海外とやり取りができる人材育成を…とかいったことに注目が集まっているようですが、今回のガイド作成を通じて、外国籍住民に対する政策の必要性を強く感じました。それは内なる国際化に目を向け「共に生きる」社会を築くためには不可欠なことです。そのため今後も行政に対してその必要性を発信し続けたいと思います。

『みんなで たのしく すくすく にしく』は、まもなく西区の HP にアップされる

予定です。 (*)2014 年3月の調査:大阪市西区外国人登録者数 3,146 人、

世帯数 2490 世帯。うち 20 歳から 45 歳までの子育て世代の割合は 60%強。



OKoTaC 掲示板

外国にルーツを持つ子どもたちの支援や 多文化共生のための活動に関わ
るご協力をお願いや募集、オコタックからのお知らせなどを随時掲載します。

(お問合せは直接それぞれの連絡先へお願いします)

▼『サタディクラス、新教室を大阪市北区中崎町に増設しました』

大阪市淀川区十三で活動している多文化な子どものための学習支援教室「サタディクラス」は、学習者増加のため、学校法人山口学園 ECC 社会貢献センターのご支援をうけ、北区中崎町に新教室を開設することになりました。

時間:毎週土曜日 14:00~16:00 場所:ECC 国際外語専門学校(北区中崎西 2-1-6) 901 教室

最寄駅は地下鉄谷町線・中崎町駅。JR 大阪駅、阪神梅田駅、阪急梅田駅からも徒歩圏内です。

詳細は多文化共生センター大阪のホームページをご覧ください。

連絡・問合せ先: (特活)多文化共生センター大阪

tel 06-6390-8201 e-mail osaka@tabunka.jp

▼『ころちゃんのクリアファイルを作ります！』

クラウドファンディング「ドリスタ」で資金調達します。ご協力お願いします』

「OKoTaC 通信」やいろいろな場面で登場するオコタックのマスコットであり、かつマルチリンガル犬でもある「ころちゃん」のクリアファイルを作成することになりました。インターネットを利用し、会員や一般のみなさまから資金を調達するというクラウドファンディングを利用します。詳しくは以下の URL にアクセスし、オコタックの企画をご覧くださいのうえ、ご協力をお願いします。

<http://dreamsstarter.com/> 7月 11日(金)以降にアクセスしてください

連絡・問合せ先: おおさかこども多文化センター

tel 06-6586-9477 e-mail osakakodomo@gmail.com



特別寄稿

府立高校での渡日生教育の経緯と現在

大阪府立門真なみはや高校 教諭 大倉 安央

編集部より

本号2ページのNPO活動報告にもあるように5月31日の総会に続き、会員でもある大倉さんに講演をしていただきましたが、総会に参加できなかった会員のみなさまから、講演内容を知りたいとの要望が多く寄せられました。そこで講演の要旨を大倉さんご本人に執筆いただきましたので、ここに掲載します。この場を借り、大倉さんにはお礼を申し上げます。

おおさか子ども多文化センターの総会で、これまでの府立高校の渡日生教育の取り組みについて発表した。私が、大阪府全体についてかかわってきたわけではないが、門真なみはや高校とその前身である門真高校で長く渡日生教育にかかわっていた経験を述べさせていただいた。

さて、1996年に一人の中国帰国生(中国残留日本人の家族)が門真高校に入学したことから、外国にルーツを持つ高校生とのかかわりが始まった。門真市が中国帰国者の集住地域であったので、これ以降、次々に入學してきた。

私たちの経験で、これがよかったといえることは二つある。ひとつは地元門真市の中学校とのつながり、もうひとつは他の府立高校とのつながりができたことである。地元中学校とは連携しながら、中国帰国生の教育について考えた。他の府立高校とは「中国帰国生交流会」を開催することで、生徒たちは多くの仲間と出会い、教員は他の高校の取り組みから学ぶことができた。

このころ、高校には特別入試はなかった。「時間延長、辞書持ち込み、ルビうち」という配慮はあったが、それでもなお入試を突破できない中学生もいたのだ。高校でも中学でも「特別の入学試験が必要」という声が上がりに始めていた。

中国帰国生が在籍する学校の教員でつくる「中国帰国生の問題を考える会」で府教委の担当者との「勉強会」がたびたび持たれたが、これは、現場が抱える問題を教育委員会と共有する格好の場となった。何が今必要なのかということが、府教委の担当者と、私たち現場の教員で確認することができたのだ。そのほか、職員団体での交渉の場でもこの問題がテーマとなった。そうした中から出てきたのが、特別枠入試の実現や、当時から非常勤講師として事実上フルタイムで働いていた中国人の先生方の常勤講師化、母語教育の実現などの課題だった。

このころ、府立高校の統合再編計画が発表され、門真高校と門真南高校を統合して普通科総合選択制による新高校を設立することが決まった。これが現在の門真なみはや高校である。2001年4月、新高校・門真なみはや高校スタートにあわせて、「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」が実施され、母語の授業も実現した。これまで非常勤講師として苦勞されてきた中国人講師の方も、常勤講師として採用されることが決まった(現在は教諭採用の道が開かれている)。

大阪府の渡日生教育は、全国的なレベルで見ても最先端を行くと自負できる。その実現には、多くの子どもたちの頑張りや、それをサポートする教員の働きがあった。これからも大事に育てていかなければならないと思う。



2014年中国帰国・渡日生交流会『春節の会』



多文化な子ども@大阪のニュース……………

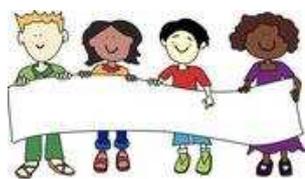
「TABUNKA SHINGAKU JUKU (たぶんか進学塾)」

外国にルーツを持つ子どもの高校進学を応援しよう！高校での学習を支える基礎学力作りを！高校卒業後自力で食べていけるように！——
 こんな思いで昨年 12 月から多文化共生センター大阪は、TABUNKA SHINGAKU JUKU(たぶんか進学塾)を開始。今春、中国、フィリピン、タイ、アメリカからの 9 名の塾生が大阪府及び兵庫県の高校入試に合格した。



多文化共生センター大阪では、この 10 年来、多文化な子どもへの学習支援教室「サタディクラス」を開き、子どもへの直接支援活動を行っている。「サタディクラス」は、6 歳～18 歳までの子どもを対象としたボランティアによる学習支援教室。居場所作りに重きを置き、学校の宿題や日頃わからないなと思っている言葉などについてボランティアと話し、ほっとできる空間を提供している。毎週多様なニーズを持った 10～15 名の子どもたちが、狭い空間で、文字通り汗をかきながら活動している。

このサタディクラスでの経験や実績を参考に、高校入試に特化してスタートしたのがこの塾。開講に先だって開かれた講師養成講座で外国にルーツをもつ子どもの現状や課題を共有し、教科学習、入試用語、母語による作文の書き方等を講師が指導する。有料だが昨年からの大阪市塾代助成事業によるクーポン券を利用することもできる。就学援助、生活保護家庭で「塾なんていかれへん」「高校なんてとてとても…」と諦めることなく、将来に夢をつないでほしいと心から願っている。 ※多文化共生センター大阪は、1995 年阪神淡路大震災発生時に立ち上がった「外国人地震情報センター」が前身となる団体。「基本的な人権の尊重」、「少数者の力づけ」、「社会へのアプローチ」の 3 つの方向性に基づき活動している。
 (たぶんか進学塾 坪内好子)



府立高校で学ぶ 外国にルーツを持つ生徒たち ～2013 年度「ピアにほんご」事業より～

おおさか子ども多文化センターは、2014 年度も大阪府教育委員会から、府立高校に学ぶ日本語指導の必要な生徒への教育支援事業「ピアにほんご」の運営を受託している。対象の生徒数は年々増えているにも関わらず、予算は減額傾向であるという矛盾する現状の中で、生徒の母語ができる教育サポーターの派遣を中心に事業を展開している。

この事業が始まって 10 年目になるが、最初の頃と比べて入学する生徒の様子が変わってきている。生徒の母語の 6 割は中国語だが、ここ数年前からフィリピン語の生徒が激増している。またネパール語、ロシア語、ウルドゥ語、マレー語など、少数言語を母語とする生徒も入学するようになり、サポーターの確保が難しくなっている。当初は、これらの生徒は 5 校の特別枠高校に入学することがほとんどだったが、最近では、一般の高校や定時制高校に入学することが増えてきた。さらに、日本の中学を経験せずに直接府立高校に入学する“ダイレクト”の生徒も年々増加している。

昨年度ピアにほんごでは、のべ 67 の高校に、生徒への直接支援や保護者懇談通訳として、計約 680 回(対象言語数 10 言語)のサポーター派遣を行った。最近では、懇談通訳派遣のニーズが増えている。その理由の一つに、生徒は日本語ができて保護者はできない家庭の存在がある。外国にルーツを持つ家庭の中には、お互いの考えを十分に話し合う共通言語(母語・日本語)が存在しなかったり、育った文化・習慣の違いから葛藤を抱えたりするケースもあることが、保護者懇談を通じて分かってきた。



その他、学校現場、教育サポーター、府内の教育委員会、保護者、地域の支援者などから、子どもたちを取りまくさまざまな課題についての相談が寄せられ、その数は 1 年間で約 250 件にのぼっている。(Y.M)

注：2012 年度、大阪府内の公立高校に学ぶ日本語指導が必要な生徒数(日本国籍含む)は、55 校に 327 人在籍。

(文部科学省は 2 年ごとに、5 月 1 日時点の調査を行っているが、2014 年度のものは未発表)



海外からのたよりをお届けします～

メキシコ便り⑮ 「パラグアイ」

(おおさかこども多文化センター会員・金野広美)

ブラジルで大瀑布イグアスの滝を堪能したあとアルゼンチンに戻り、今度はパラグアイへ行きました。国境の街シウダー・デル・エステは闇マーケットがあるため安い品物を求める人でごった返し、ブラジルやアルゼンチンにも頻りにバスが行き来していました。私のパラグアイでの目的はシウダー・デル・エステから 41 キロの所にあるイグアス市の移民資料館を訪ねることでした。パラグアイの日本人移民については知らないことはないというパラグアイ日系人協会会長の園田さんに資料館を案内してもらい体験談も含め、いろいろ話を聞かせてもらいました。

パラグアイで日本からの移民が始まったのは 1936 年、1200 人が入植しました。日本政府の「少しがんばれば豊かな作物が実る土地が自分のものになる」という宣伝文句を聞き、希望に胸ふくらませてやって来た人た



ちが連れていかれた所は、うっそうとしたジャングルの中でした。みんなテント生活をしながら、木々を倒し、それらを焼き、畑をつくり、作物を植えました。しかしイナゴの大群にやられ、そのイナゴを食べて飢えをしのいだこともあるということでした。そういえばコスタリカで知りあいになった宮城テツコさんもパラグアイに 10 歳のときに家族に連れられて入植し、10 年間イナゴの被害にもめげずがんばったそうですが、結局パラグアイでは食べてはいけず、アルゼンチンに移ったそうです。今では洗濯屋を営みながら、息子のアキラさんと暮らしています。彼女たちとはブエノスアイレスで会い、カルネアサードをごち

そうになりながら、パラグアイでの筆舌に尽くしがたい苦労話をいろいろ聞かせてもらいました。

このように大変な移住生活がパラグアイの日系人社会ではあったようですが、しかし今では野菜の栽培に成功し、特に大豆はもともとパラグアイにはなかったものですが、今や強力な国際商品になっているということでした。現在パラグアイには 6000 人の日本人がいるということですが、ここでの悩みも高齢化で、若者たちはサラリーマンのいい、豊かで楽しそうな日本に行きたがり、そしてそのまま戻ってこないというケースが増えているそうです。結局、村に残るのは老人と子ども。まるで日本の農村と同じ状況が、ここパラグアイでもありました。

イグアス市の日本人居留地は赤土の畑が広がっている何も無い、静けさだけがある所でした。食料も日本食材が何でもあるので、もう少しゆっくりしていきたくったのですが、このあとアルゼンチンfolkローレのメッカといわれているサルタに行きたかったのを先を急ぎました。ここではアルゼンチンのバスの便についてはわからないので、とにかく国境だけは越そうとパラグアイの首都アスンシオンのバス停まで行きました。サルタ行きはフォルモサという町から出ているとのこと、3時のバスに乗り4時間、フォルモサに着いた時はサルタ行きはとっくに出去てしまい、やむなくここで一泊しました。イグアス市を出たのが朝の7時、フォルモサに着いたのが夜の7時。すっかり疲れてしまい、その夜は爆睡してしまいました。



入植当時の農機具



『アミーゴスクラブ』(大阪府堺市)

アミーゴスクラブは、堺市在住の外国にルーツをもつ6歳から15歳までの子どもを対象に日本語教室を開催しています。平成25年5月にスタートし、日本語指導及び多文化共生の活動を推進することを目的として支援を行っています。現在は、ブラジル、ペルー、フィリピン、中国にルーツをもつ子どもが参加しています。



本教室は、外国にルーツをもつ子ども達を対象に、教員や日本語指導員としてかかわった経験のある人が中心となって立ち上げました。そのきっかけは、ブラジルにルーツをもつある教え子の声でした。彼は、日本で生まれ育ち、日常会話は、ほぼ理解できていました。しかし、学年が進むごとに、「授業で使う日本語が分からない」と話し、将来に不安を覚えるようになっていました。家庭では、保護者が勉強をサポートするのは難しい状況でした。私達は、彼と同じような思いを抱えた子どもが堺市でも多くなってきていることを知り、日本語

教室「アミーゴスクラブ」を発足することにいたしました。

アミーゴスクラブでは、日常会話レベルからの支援が必要な子、学習言語としての日本語指導が必要な子など、抱えている課題はさまざまです。そこで、授業では子ども達の日本語レベルやニーズに合わせてマンツーマンやグループ学習を実施、日常会話から学校での授業や学校生活に対応できる日本語能力までを身に付けられるよう支援しています。その一方で、学校生活の悩みを抱えてくる子どももいます。日本語で自分の思いを伝えるのが十分できないこともあります。ゆっくり耳を傾け、日本語でコミュニケーションが取れるようにサポートしています。

また、子ども達の楽しみの一つに休み時間の遊びがありますが、この時間は、あやとり、カルタ、おにごっこ、かくれんぼなど、日本の文化のよさを知る絶好のチャンスです。初めは一人遊びをしていた子ども達も、今ではルーツを越えて一緒に楽しく遊んでいます。そして、クリスマス会では、母語でメッセージを書いてクリスマスツリーに飾りました。保護者の方々が持ち寄ってくださったブラジルやペルー料理に大喜びの子ども達でした。このようにアミーゴスクラブでは、年間を通して、日本の文化や自国の文化に触れる機会を設け、子どもたちの国際理解を進めています。



今年、2名の子どもは無事高校入学を果たし、自分の夢に向かって進んでいます。彼らの夢の実現は、同時に私たちの夢でもあります！これからも、アミーゴスクラブが子ども達にとって、安心して自分らしく日本語が学べる場となることを願って、活動を続けていきたいです。

(アミーゴスクラブ 白濱 史枝)

会 場 : 堺市立人権ふれあいセンター 第一学習室

日 時 : 毎週木曜日 18:30~20:30

問い合わせ先 : amigosclub.sakai@gmail.com(アミーゴスクラブ事務局)

※ボランティアを募集しています。子ども達の笑顔は、最高です!



イベント情報 ～おおさかこども多文化センター主催のイベントです～

▼ ヒューライツ大阪・おおさかこども多文化センター 共催セミナー

7.12セミナー「グローバル人材と外国ルーツの子どもたち」

「グローバル人材」の育成は、いま日本で教育をめぐる最も大きな関心や課題の一つになっています。外国から日本に移り住んだ子どもや、外国人の親を持つ子どもたちこそ、この「グローバル人材」になる可能性があるのではないのでしょうか。外国ルーツの子どもたちは、社会にとって「負担」ではなく「財産」のはずです。その子どもたちが潜在的なパワーを発揮するために、何が必要なのでしょう。

多くの外国につながる大人や子どもたちを、長年にわたり取材してきた経験から見てきたことを、朝日新聞記者の浅倉拓也さんに話していただきます

【日 時】 2014年7月12日(土) 14:00～16:00

【場 所】 ヒューライツ大阪・セミナー室(大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8F)

【報告者】 浅倉 拓也さん(朝日新聞記者)

【資料代】 500円(ヒューライツ大阪とおおさかこども多文化センターの会員は無料です)

【定 員】 40名(先着順)

【問合せ・申込み】 (資料準備のため7月10日までにお知らせください)

ヒューライツ大阪(一般財団法人 アジア・太平洋人権情報センター)

TEL:06-6543-7003 FAX:06-6543-7004 Eメール:webmail@hurights.or.jp



▼ 外国にルーツを持つ子どもの教育支援学習会

「できました！ 渡日生用理科教材」

「勉強がわからないじゃない！ ことばがわからないだけ」

—— 渡日生の心の叫びに対するささやかな取り組み

理科そして日本語の教員としての経験から、渡日生用中学校理科教材作成までの経過と教材の特色・使い方を報告していただきます。

【日 時】 2014年7月30日(水) 14:00～16:00

【場 所】 ヒューライツ大阪・セミナー室(大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8F)

【報告者】 井上 泰雄さん(元大阪市立市岡中学校・帰国した子どもの教育センター校教員)

【資料代】 500円(おおさかこども多文化センターの会員は300円です)

【定 員】 40名(先着順)

【問合せ・申込み】 (資料準備のため7月20日までにお知らせください)

名前、所属、住所、電話番号、メールアドレスを記入の上

Eメール: osakakodomo@gmail.com 又は FAX:06-6586-9477 にお申し込み下さい。

NPO 法人 おおさかこども多文化センター

代表 村上 自子

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-7-7 CE 西本町ビル 8階

Tel / Fax 06-6586-9477

E-mail osakakodomo@gmail.com

URL http://okotac.org

郵便振替 【記号・番号】00940-1-272824

(他金融機関からは【店名】〇九九(ぜいじゅうじゅう))

【店番】099【預金種目】当座【口座番号】0272824

口座名義『NPO法人 おおさかこども多文化センター』

(フリガナ: トクヒ) オオサカコドモタブンカセンター

